

Chronic Gingivostomatitis with Esophagitis in Cats.

Kouki MI, Papadimitriou SA, Psalla D, Kolokotronis A, Rallis TS.

J Vet Intern Med. 2017 Nov;31(6):1673-1679.

【背景】

猫の慢性歯肉炎（FCG）は炎症ならびにびらん性または増殖性病変またはその両方によって特徴付けられる。原因は不明で、痛みを伴い患者を衰弱させ、しばしば難治性の疾患である。一方で食道疾患は猫での報告は多くはないが、臨床徴候の一部はFCGと類似しており併発が見過ごされている可能性がある。

【目的】

食道炎がFCGと並行して起こるかどうかが、FCGの治療薬剤が疾患の相互作用に関与するかどうかを調べること。

【動物】

- ・FCGの臨床徴候を示す58匹の猫および口腔疾患の徴候を示さない12匹の健常猫。
- ・歯肉口内炎は肉眼的または組織学的またはその両方で確認。
- ・憩室、狭窄または裂孔ヘルニアおよび過去30日以内に麻酔を受けた動物の内視鏡的証拠を有する個体は除外。

【方法】

- ・前向き調査。
- ・FCG群は、内視鏡実施の前10日以上（メチルプレドニゾロンアセテートでは30日以上）休薬。
- ・全身麻酔下で
 1. pH値計測(3分間隔で3回ずつ)： 口腔(唾液)、食道近位、中部、遠位
 2. 肉眼的評価(4段階)： 0=正常 1=軽度粘膜虚血および紅斑 2=中程度 3=重度(潰瘍)
 3. 生検採材

【結果】

[pH] 唾液pHは食道pHと相関しなかった。(Table 1)

[内視鏡検査] FCG群: 57/58 (98%) は、食道の1以上の部位、特に近位部 (44/58、76%) または遠位部 (53/58、91%) またはその両方において食道炎を発症した。対照群: 全頭で炎症所見なし。(Table 2,図) また検査前の薬物治療との関連性は無かった。

[病理組織検査] FCG群:(最終的に25サンプルの評価) 炎症性浸潤が20、扁平上皮の化生(円柱上皮化)が5。
対照群:(最終的に4サンプルの評価) 異常なし。

【考察】

- ・FCGを有する猫は特に食道の近位および遠位部において高い確率で食道炎を併発している。
- ・FCGを有するネコは、食道炎の典型的な徴候の有無にかかわらず、炎症の程度に応じて内視鏡検査および適切な治療を受けるべきである。
- ・遠位部での炎症は噴門前での唾液の蓄積とグラム陰性細菌による炎症性サイトカインの活性化によって食道括約筋の収縮抑制が誘発されることで起こると考えられる。

【批評】

- ・対照群の母数、特に病理組織検査の有効サンプル数が少なく、潜在的な無症候性食道炎の存在に関しては追求が望まれる。
- ・抗生剤(32/58頭使用)の詳細については記載されていないため、pHへの影響の正確な評価は不明である。
- ・今回の研究で食道生検に関して合併症の報告は無かったが、穿孔等のリスクには注意が必要である

Table 1. Mean salivary and esophageal pH values for FCG (F) and Control (C) animals.

	FCG Mean (SD)	Controls Mean (SD)	P-value
Salivary pH (F = 26, C = 12)	8.9 (0.8)	8.6 (0.7)	0.317
Proximal pH (F = 26, C = 11)	8.5 (0.8)	8.6 (0.5)	0.680
Middle pH (F = 26, C = 11)	8.5 (1.1)	8.3 (0.5)	0.556
Distal pH (F = 26, C = 11)	8.3 (1.2)	8.4 (0.6)	0.715

Table 2. Number of animals with FCG (F[n = 58]) exhibiting macroscopic signs of some degree of esophagitis (scale 0-3) per part (proximal, middle, distal) and the statistical correlation of esophagitis per part: (Es. part) with controls (C[n = 12], P (τ)) and with the severity (scale a-c) of the oral inflammation [SV(n = 58)] (P-value [Kendall's τ]).

Es. part	F (n = 58) N(%)	C (n = 12) N(%)	P (τ)	SV (n = 58) N(%)			P-value (Kendall's τ)
				a	b	c	
Proximal			<0.001 (-0.431)	5 (100.0)	28 (100.0)	25 (100.0)	0.390 (0.098)
0	14 (24.1)	12 (100.0)		3 (60.0)	6 (21.4)	5 (20.0)	
1	23 (39.7)			1 (20.0)	11 (39.3)	11 (44.0)	
2	16 (27.6)			1 (20.0)	9 (32.1)	6 (24.0)	
3	5 (8.6)			0 (0.0)	2 (7.1)	3 (12.0)	
Middle			0.035 (-0.167)				0.918 (-0.014)
0	41 (70.1)	12 (100.0)		4 (80.0)	19 (67.9)	18 (72.0)	
1	9 (15.5)			0 (0.0)	5 (17.9)	4 (16.0)	
2	8 (13.8)			1 (20.0)	4 (14.3)	3 (12.0)	
Distal			<0.001 (-0.519)				0.724 (0.040)
0	5 (8.6)	12 (100.0)		1 (20.0)	2 (7.1)	2 (8.0)	
1	16 (27.6)			0 (0.0)	9 (32.1)	7 (28.0)	
2	27 (46.6)			3 (60.0)	14 (50.0)	10 (40.0)	
3	10 (17.2)			1 (20.0)	3 (10.7)	6 (24.0)	

